

大津企業景況調査報告書

(第63回)

平成25年10月～12月期 実績

平成26年 1月～ 3月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成25年10月～12月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	13社	65.0%
製 造 業	10社	6社	60.0%
卸 売 業	10社	6社	60.0%
小 売 業	30社	18社	60.0%
サービス業	30社	18社	60.0%
合 計	100社	61社	61.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成25年10月～12月とし、調査時点は平成25年11月15日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感は緩やかに回復しつつある

平成25年10月～12月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況は、全体の業況判断DI（前年同期比）が、前四半期に大幅に改善しマイナスから脱した後、今四半期も±0と横ばいで緩やかに回復しつつあり、建設業を中心に人員不足となっている。業種別では、建設業が公共投資の拡大や一部で台風災害の修復需要の増加から繁忙で、卸売業、小売業が消費増税前の需要増加から改善したが、製造業は採算の悪化から大幅に悪化してマイナスに転じ、サービス業も悪化した。

先行きは、業況判断DIが▲10でやや悪化すると予想されている。これは、建設業では公共投資等が続くこと、卸売業では増税直前の先買い等から順調を見込んでいるが、小売業、サービス業、製造業は仕入価格上昇による収益圧迫が続くことや消費増税後の需要の反動減を警戒して見通しているものとみられる。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、緩やかに回復しつつある。

「前年同期比でみた業況判断DI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期に大幅に改善した後、今四半期も±0と横ばいで緩やかに回復しつつある。業種別では、公共投資の拡大等から建設業が順調で、消費増税前の需要の増加から卸売業、小売業が改善したが、製造業が採算の悪化から大幅に悪化してマイナスに転じ、サービス業も悪化した。

□ 売上DI（前年同期比）はやや減少。建設業が大幅増加。小売・サービス業は減少。

「前年同期比でみた売上DI(全体）」（「増加」－「減少」）は、前四半期の+7から今四半期▲2やや減少した。業種別にみると、建設業が大幅に増加した。これは公共投資の拡大や台風災害の修復需要の増加によるものとみられる。消費増税前の需要の増加から卸売業も増加したが、小売業、サービス業は減少した。

□ 採算DI（前年同期比）は4期連続改善。卸売業が大きく改善。

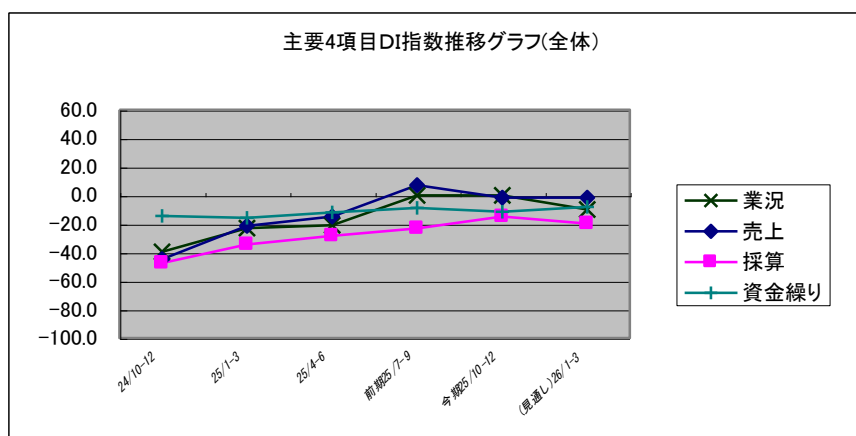
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期▲23から今四半期▲15と4期連続改善した。業種別にみると、卸売業が大きく改善し採算水準も高水準になったが、逆に製造業は大幅に悪化した。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）はやや悪化。サービス業が悪化。

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲9から今四半期▲12にやや悪化した。業種別にみると、サービス業が悪化し、建設業、卸売業が改善した。

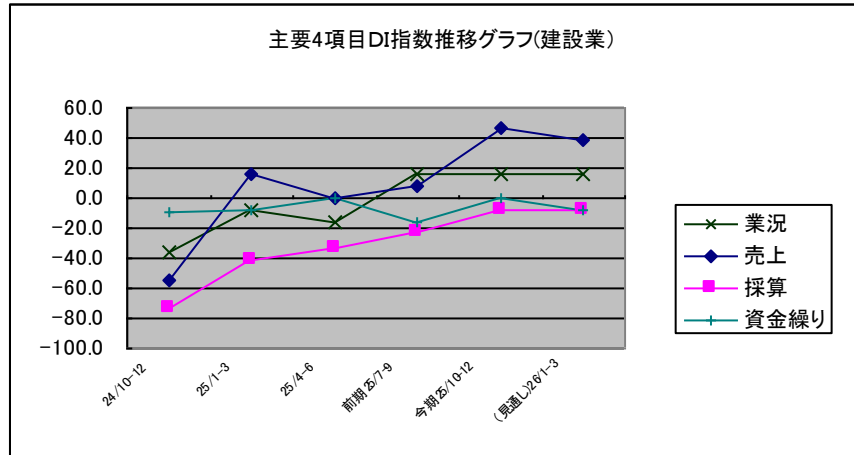
□ 従業員DI（前年同期比）は人員不足強まる。特に建設業で顕著に。

「前年同期比でみた従業員DI(全体）」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の+9が今期+13と人員不足が強まっている。業種別にみると、特に建設業で大幅に人員が不足しており、卸売業、サービス業でも人員が不足している。



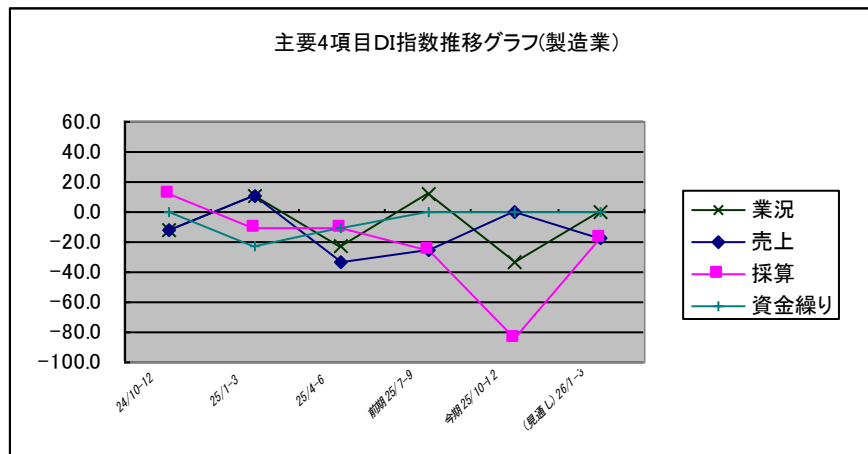
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期+15 から今四半期も+15 と順調である。個別指標をみると「売上」が前四半期の+8 から今四半期+46 と大幅に増加し、かつ「採算」も改善して「採算水準」は+31 と高水準になった。「取引の問い合わせ」も大幅に増加した。「人員」は前四半期の+15 から今四半期+31 と大幅不足になっている。公共投資の拡大や一部で台風災害の修復需要の増加等によるものとみられる。



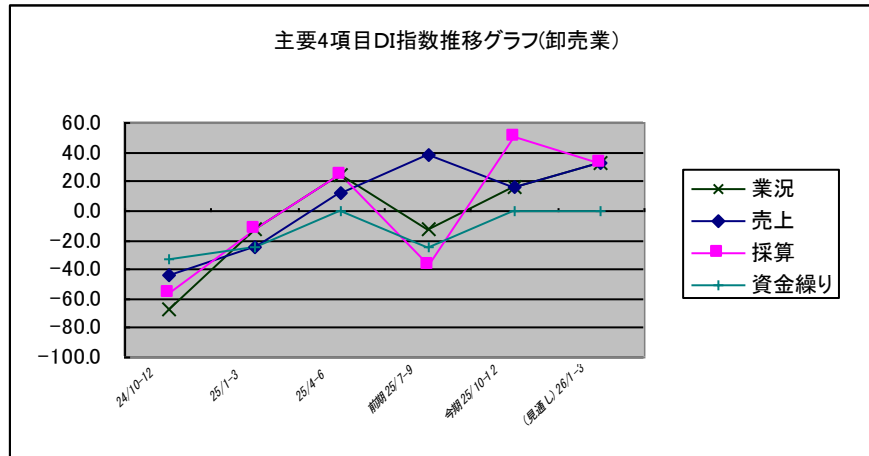
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期+13 から今四半期は▲33 と大幅悪化してマイナスに転じた。「売上」は改善したものの、「採算」が前四半期▲25 から今四半期は▲83 と大幅悪化しており、「取引の問い合わせ」も低調である。これは新興国景気の減速などの影響によるものかと思われる。



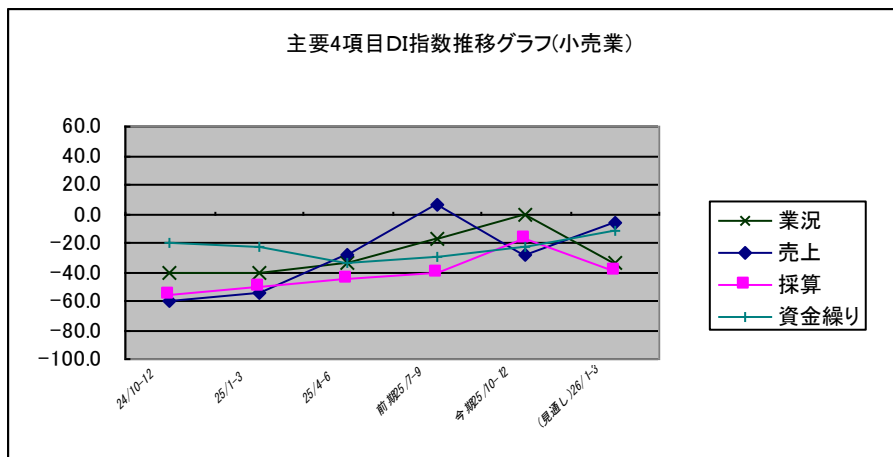
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲13 から今四半期は+17 と大幅改善し、またプラスに転じた。「売上」は増加が続き、「採算」は大幅に好転して「採算水準」は黒字企業が大幅に増加した。消費増税前の駆け込み受注で特に住宅関連資材の受注増加等が発生しているものとみられる。



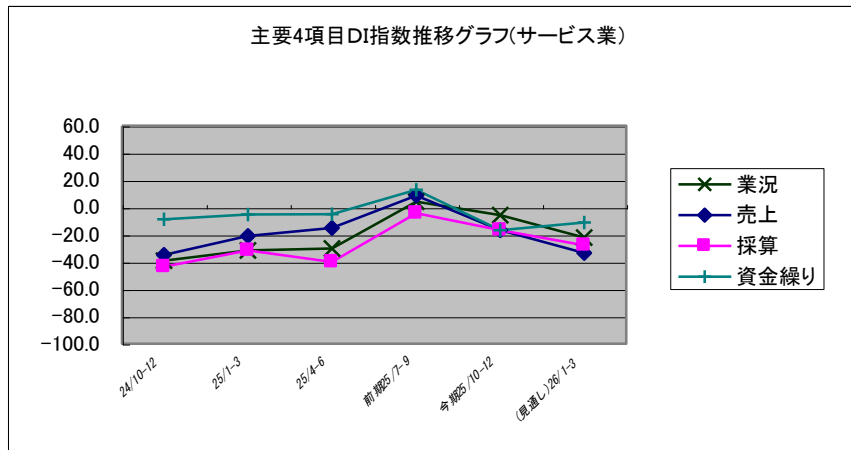
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲18 から今四半期は±0 と改善しマイナスを脱却した。個別指標をみると「売上」は前四半期の+6 から今四半期▲28 と減少したが、「採算」が前四半期の▲41 から今四半期▲17 と改善した。消費増税前に高額商品の販売が増加していること等によるものとみられる。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+4 から今四半期は▲6 と悪化し、またマイナスに転じた。「売上」は前四半期の+9 から今四半期▲17 と悪化し、「採算」も悪化して「採算水準」は前四半期の+13 から今四半期▲11 と悪化している。「資金繰り」も悪化している。「従業員」は前四半期のから人員不足が続いている。不動産業では消費増税の駆け込み需要のピークを越えたとみられる。



来四半期（3 ヶ月後）のD Iの見通しについては、回復が足踏み状態になると予想されている。全体の「業況」は、今四半期の±0 から来四半期には▲10 にやや悪化する見通し。個別指標でみると「売上」、「採算」、「採算水準」、「取引の問い合わせ」ともやや悪化する見通しとなっている。

業種別にみると、建設業では公共投資等による繁忙が続くこと、卸売業では増税直前のまとめ買い等から順調を見込んでいるが、小売業、サービス業は仕入価格上昇による収益圧迫が続くことを見込んでいる。製造業を含め全般に消費増税後の需要の反動減が大きいことを先取りした警戒感を見通しているものとみられる。

3 ヶ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前四半期から1ポイント増加して今四半期は21%となった。業種別にみると、卸売業が最も高く50%、製造業が33%、建設業が31%となった。投資企業の投資内容の割合は、「更新投資」、「合理化・省力化投資」が33%で、「生産力増加」投資は20%。投資方針は、「今後の景気により見直す」とする企業が46%ある。まだ設備投資計画の水準は低く、生産力増加投資はさらに少ない。景気の緩やかな回復感はあるものの消費増税等を控え、企業経営者の慎重な姿勢が窺われる。

(MBA・中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は7社であった。

- ・ アベノミクスの風は、どこに吹いているのやら。(製造業)
- ・ 来月、来期のことは解りません。引き合いが有れば、直ちに対応する事業内容より。
(小売業)
- ・ 消費税改正後の消費意欲の動向、見通しが判らない。(小売業)
- ・ 売れるものと売れないものが、はっきりと分かれる。同様に売れる時と売れない時、中途半端な商品、サービスは、自らの首をしめる結果になる。考えたり、迷うことを楽しむお客様が減っているように感じます。(小売業)
- ・ 政府からは、給与を上げるようにとの要望が出ているが、具体的にどうすれば上げられるのかが不明。市場が少しくらい動いても、すぐには個人の所得には反映できないのでは。
(サービス業)
- ・ 減反廃止、企業の農業への参入緩和、6次産業への躍進。来年からは商業・工業(又は製造業・サービス業) VS 農業・農協という境界がなくなり、農業が一大産業に発展するように期待したい。(サービス業)
- ・ 台風に影響された、リフォーム工事が大幅に増加。年を越してもさばききれない。(建設業)

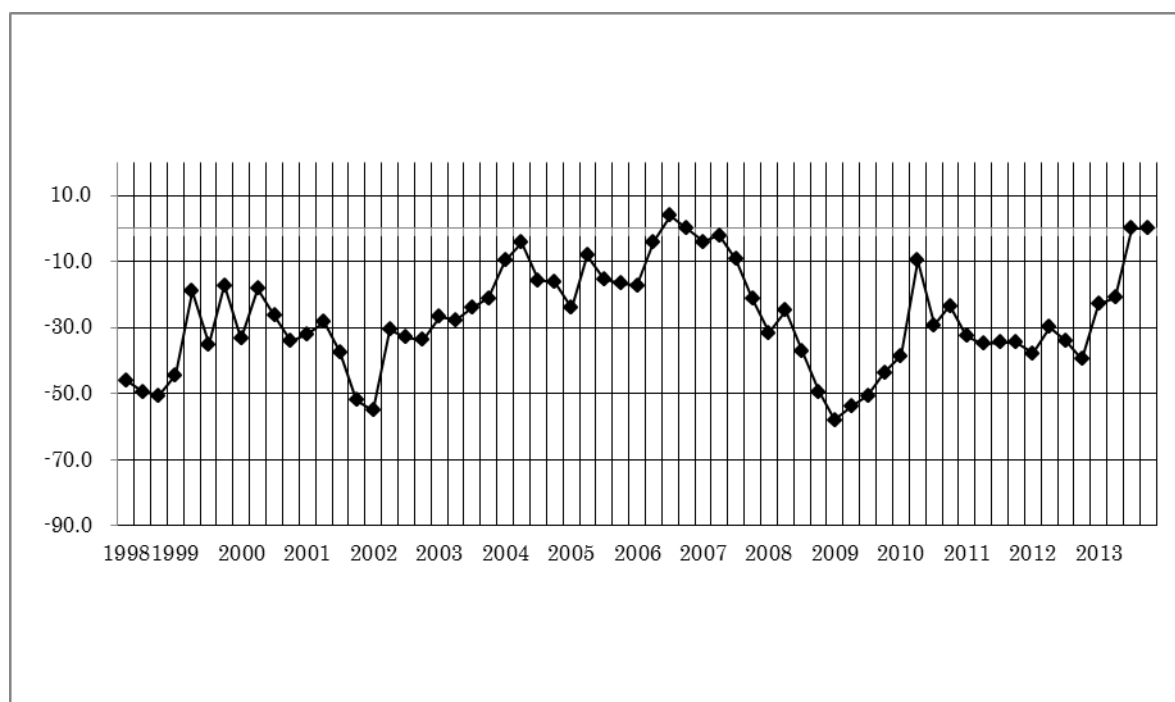
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	0.0	▲9.8	▲1.6	▲1.6	▲14.8	▲19.7
建 設 業	15.4	15.4	46.2	38.5	▲7.7	▲7.7
製 造 業	▲33.3	0.0	0.0	▲16.7	▲83.3	▲16.7
卸 売 業	16.7	33.3	16.7	33.3	50.0	33.3
小 売 業	0.0	▲33.3	▲27.8	▲5.6	▲16.7	▲38.9
サービス業	▲5.6	▲22.2	▲16.7	▲33.3	▲16.7	▲27.8
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	9.8	4.9	▲9.8	▲11.5	13.1	8.2
建 設 業	30.8	30.8	30.8	30.8	30.8	23.1
製 造 業	33.3	33.3	▲16.7	▲16.7	0.0	0.0
卸 売 業	66.7	66.7	▲16.7	0.0	16.7	16.7
小 売 業	▲11.1	▲16.7	▲38.9	▲33.3	0.0	5.6
サービス業	▲11.1	▲22.2	▲5.6	▲22.2	16.7	0.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全体	▲11.5	▲8.2	0.0	▲3.3	3.3	▲1.6
建設業	0.0	▲7.7	▲7.7	▲7.7	0.0	0.0
製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7
小売業	▲22.2	▲11.1	0.0	▲5.6	5.6	▲5.6
サービス業	▲16.7	▲11.1	0.0	▲5.6	0.0	▲5.6
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 1

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>